

“都電車庫ものがたり”

プロジェクトX

こまごめ

都電車庫跡地再開発

地下鉄七号線・駒込橋

コミュニケーションひろば



平成十三年七月

原口 時夫

街づくり参画の歩み

昭和 42～56 年	昭和 59 年～ 平成 3 年	平成 2 年～ 4 年
<p>都電車庫跡地再開発に当たり、近隣町会と商店街が連携して区施設の設置を要望。</p>	<p>地下鉄 7 号線開通に当たり、利用者の利便性防災のために、当地区への出入口接地を要望。同時に地域文化継承の視点から、駅施設への染井吉野桜の展開を要望。</p>	<p>駒込橋の架け替えにあたり、桜のデザインの導入と、旧日光御成街道としての歴史文化の継承を要望。</p>
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>ことぶきの家、児童館、保育園、社会教育会館、図書館、都営住宅、防災設備倉庫、赤十字血液センター、公園などを実現。</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>当地区への地下鉄出入口を実現。地下鉄駅コンコースに、桜をモチーフとした天井デザインを実現。</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>橋の欄干部および歩道に桜のデザインを展開。また親柱にぼんぼりを再現すると同時に、歴史的資産として旧橋梁の一部を残存。</p>

『どうして都営住宅の事になると、オセツカイと云うか親身になって相談に乗ってくれるのか』―都営住宅住居者―

『生みの親が吾が子を見守るのは当然のこと』―地元―

とかく都営住宅はもとより旧都電車庫跡地内の摩擦や解決のメドが立たない時の殺し文句です。つまり、我が町会内は跡地再開発の生みの親と云つても過言ではないのであり、現在も諸問題に積極的に参入、そこには根気と愛情の親の世界があるのであります。

この世紀の一大プロジェクト エックス X は

昭和42年に逆かのぼります。

当時都電が交通問題として取り上げられ、また都財政の累積赤字が膨大で、特に都交通局はその筆頭になっており、都電撤去は必至の状態となっておりました。

それとは別に地元駒込においても問題・課題が山積して、豊島区の東端に位置し「陽いづる地域」にもか

かわらず、他区と隣接していることから区施設が乏しく、かろうじてあつたさくらの家や区貸金庫も移転してしまう有様で、優秀な地元出身の先生も努力されましたが、用地不足等々で名案がなく、お年寄りたちは飛鳥山の北区老人いこいの家に出かけ、子供達は児童館、図書館を求めて文京区へと足を運び、それが日常のことでした。しかし、これにあまんじていたわけではなく、特に我がは町内会は発展の弊害になっている道路拡幅と云う都市計画問題があり、戦前からの深刻な荷物を背にのせているのである。

さて、都電が無くなりそう…。車庫跡地はどうなるのか…。地元で千載一遇のチャンス到来か…。都区施設、緑豊かなオープンスペース、お年寄りからゆりかごまで地元民が利用できる施設、大ホール、展示場、都市計画による蒸発商店の救済と商店街の整備等。夢のまた夢の実現を目指して旗揚げを見るのであります。

駒込駅前通り商店街は昭和30年頃、国鉄駒込駅において北口閉鎖問題が発生、商店会初めての住民運動を展開、貴重な経験を得ましたが、十数年後に起こった駒込都電車庫跡地問題は東京都と豊島区を対象、町ぐるみの地域再開発で駒込の未来像を目指した、まさに駒込のプロジェクト エックス X だったと云えましょう。

さて地元のコンセプトは『駒込の一等地を地域のお年寄りからお子さんまで役立つものでなければならぬ』と一致いたしましたもの、この雄大な構想には全くの試行錯誤で実現は夢のまた夢物語の観があつたことは否めません。プライベートなことでも恐縮なのですが、筆者と車庫の係わりに少々言及いたしますと、ここは少年時代によく遊んだ秘密のスペースで、つまり『僕のふる里』なのであります。戦時中はB29の大空襲により一望千里の焦土に泣いた『悲しいふる里』も知っております。月日は百代の過客にして、往きかゝる人もまた旅人なり。なつかしい人々の面影が浮かび

ます。小生の心中は駒込の過去・現在・未来を愛し憂い幸せを祈る『ふる里駒込人間』なのであります。こんなことから恐れも知らず無我の境地で参画。自分の頭の蠅も追えないのが、江戸っ子気質で……。まずは身近な処からと、敬愛しております大正生まれの先輩諸兄に相談、惜別された故堀川孝造先生に付き添われて、岩間守造氏を訪問。リーダーシップをお願いいたす運びとなりました。そして忘れもしない昭和43年2月14日、かつぱ寿司さんの二階で二十名の有志が集まり熱心に討議、さらに輪を広げようと、2月19日、都市計画路線内会員の集い。3月11日、商店会大会と拡大、その際商店会サイドでは力不足であることがわかり、地元町会（二・三丁目）にも呼びかけご協力を頂くことになりました。そして、4月21日、歴史上記念すべき日が到来。『都電駒込車庫跡地再開発・都市計画対策協議会』が発足。会長・岩間守造、副会長・比米良平（二丁目親和会会長）、須江伊作（三

丁目町会会長)、事務局長に小生原口時夫が選任され、勇躍、明日の駒込を目指し、大きな大きな希望を持った第一歩を印したのであります。

さて、昭和46年に都電廃止、駒込車庫跡地は48年に処分計画がでるにおよび地元では、このスペースを



(1947年8月・国土地理院ホームページより)
まだ焼け跡が残る駒込・都電車庫前に都電が1輛

地元発展に結ぶため都電車庫跡地再開発・都市計画対策協議会(略・都電車庫跡地協議会)は試行錯誤の中、活発な活動を起こし故花山やすしさんを通して“己を知り相手を知る”東京都・豊島区の行政の仕組みを知ることから始めるのでした。(※当時は行政は遠い存在で、お役人は近づきたい偉い人と思っていた)

まず交通局に詳しい巢鴨の的場茂先生を尋ね、その後地元の田村先生、池袋の矢嶋先生を再三訪問、地元の意思を伝える手段としては請願書(紹介議員の署名もいる)・要望書・陳情書・要請書 e t c ……が重要であることがわかり、方法、内容について議論続出、数回に亘る検討会の中に骨格が作られ、先ず跡地(一、二、三七七平方メートル・三、七四四坪)が民間用地に売却されることが一番のガン(当時美濃部都政として都赤字財政解消のため都有地売却の構想もあった)と言うことで、『都内拠点地域の近代的再開発は私達都民の強く望むところであります。……』の前文からなる請

願書を作り、都市計画放射10号線の計画実施に伴い移転をよぎなくされる人達の代替地、駅前広場、公園の設置・東北側斜面の立体的公園化・公共施設等、豊島区当局と充分協議のこと、地域住民ともよく協議することetc…、これを都知事、都議会議長、都交通局宛に提出したのであります。（※都市計画が都と因果関係があり都と交渉するキーワードになった）。しかし駒込都電跡地は地形が非常に悪く、広いスペースを持ちながら放射10号道路に面した開口は僅か50m足らずで巾着型、そして東北部はガケになっており併存都営住宅の一階を商店にしても大通りに面する部分が少ないため、地元では中央広場を十分にとって諸施設を奥にやりカギの手に施設を作り商店コマ数ができるだけ多くとることを望みました。また、バス発着所が入口付近に構えたのでは問題がありすぎたが、地下鉄7号線が開通すれば廃止されよう、しかしこの跡地が付近の住宅密集地と近接しているため当時注

目の日照権がからみ余り高い建物は建てられないので、都住宅局では二百ないし三百の都住を建てられれば精一杯、また採算をとるためにコスト高になる心配が出てくる。これらの問題点をふまえて地元の総意を



(1975年1月・国土地理院ホームページより)
都電車庫は撤去され空き地に・都バスが数台駐車
六興ビル脇の坂道はまだない

まとめなくてはならず、そんなジレンマの中に都バス車庫跡が仄聞され地元では愕然とするわけですが、フアイト満々早速、バス車庫反対運動をはなばなくしく展開するのであります。

ただちに『バス車庫反対』の請願書を昭和44年2月東京都議会に提出、吉報を待ち望んでいた処、駒込都電車庫地内の資材置場空地に都バスが十数台入っているのを目撃し、このまま見過ごすと本当にバス車庫になるのではないかと危機感を煽るのであります。調査したところ都電19系統（王子く日本橋）廃止後は、バスターミナルに衣替えされ百四十台の都バスを収容しゲタバキ型都営住宅（一階部分がバス車庫、上層部は住宅）建設予定で昭和47年度を目途に営業しようとする都市計画が明るみになるに及び新建設された品川駅そばの都バス車庫併合の都営住宅を視察したが、なにも駒込駅に隣接した一等地に公害の元凶になりかねないバスターミナルを持ち込まなくてもよい

のにと大反対となり、世論に訴え同運動を盛り上げるため「自動車の排気ガス公害と騒音から駒込を守ろう」と都電車庫周辺を重点とした立看板による実力行使作戦を展開するのです。白地に鮮やかな黒と赤字のキャンペーンの大型看板を車庫前歩道橋上に設置いたしたところ、都交通局駒込営業所所長他数名の職員が飛び出して着て、カンカンに怒って撤去を迫り地元との間でこぜりあい、都労連も圧力をかける始末で大変緊張した長い日々が続きました。

その内に提出した請願書が採択されるに及び8月頃には地元要望が取り入れられる気運が見え現状が変化をきたし、地元は同跡地利用方法、つまり基本計画策定をすべく大事な段階が近づいて着たことを知るのであります。この頃いよいよ都方針による都電19番線が昭和46年3月18日に廃止の運びとなり、明治36年1月25日に日本橋く万世が営業開始、本郷三丁目が明治37年1月15日、追分町が大正2年3月15

日、駒込橋が大正6年6月4日、そして駒込駅前が大正11年4月10日、飛鳥山が大正12年4月15日、王子が大正14年4月17日とチンチン電車、市電、都電と時代とともに名称も変わり遂にサヨナラ19番線を惜しむパレードを最後に花電車が別れを告げたのでした。(駒込営業所は昭和14年4月15日に開設)

さて、都電の響きも忘れがちになる頃、巨大な電車格納庫群も車両も諸施設も逐次解体され都電の悲しい声を聞く思いの夏草茂る都電車庫跡地となるのであります。その頃今度は文京にある向ヶ丘高校の代替地としての陳情による動きを知り再び反対阻止に色めくのであります。

最近仄聞するところによりますと、都立向ヶ丘高校そくぶんの校地買収にともなう代替地として駒込都電車庫跡地を利用するという運動がなされておりますが…との書き出しで駒込地元再開発案を丁寧^{ていねい}に記した陳情書を都交通局長宛に提出、突然ふってわいた外部要因

による土地利用計画で大変気を揉むことでしたが、幸い都議の矢嶋先生からの連絡で、いち早く手を打つことが出来ると共に学校側陳情の不採択の報に胸をなでおろすのであります。こんな頃、大塚都電車庫跡地再開発の説明会が区立勤労青少年センターで開催され(46年8月)東京都住宅局及び豊島区企画室からほぼ最終案と思われる構想が発表されました。公共施設の少ない大塚地区にぜひ目玉商品が欲しいという地元の熱意が実って東京都・豊島区の公共施設を含む14階建ての高層都営住宅四百五十六戸を作り保育園・児童館・社会教育館・老人いこい室・文化ホール(三百人収容)分譲商店(六百五十万円)東京都第四建設事務所等の計画が示され、その反面豊島郵便局の設置は地元の反対で取りやめたとの具体的な説明がなされました。この素晴らしい構想は駒込都電車庫跡地に類似点が多々あり、早速大塚の商店街に出向き賛成、反対の聞き取り調査等もいたしました。駒込でも

説明を受けた方が良いと考え、『区構想を聞き地元の要望を聞かせるつどい』と銘打って区当局にもお願いいたし、地元区議の花山寧^{やすし}さんをゲストとして迎えて開催する運びになりました。ここで特筆したいのは区の説明役の大役を果たされた企画室長は、前豊島区長の加藤一敏さんで広報課長の矢野正道さんも参加し苦労話も交えた大塚構想の説明がなされました。地元駒込問題にしましては都と区の現在の考え方を伺い一喜一憂、大塚構想が大変参考になったことは言うまでもありません。参加者より熱心な質疑応答、深みを増した討議が行われ、このやり取りが歴史を変える請願書の下地となり紆余曲折の中にも大変役立つのでした。平成6年薫風5月駒込駅北口広場で、青年部企画の『ショッピングモール化完成イベント』恒例のさつき祭に引き続いての”チャリティー・リサイクルセール“『ふれあいマーケット』の大横断幕のもと盛大に開催されました。来賓にお招きした加藤一敏区

長がテープカットのセレモニー、花束贈呈等を行いました。都電車庫再開発生みの親である区長さんの心情は如何だったでしょうか？感慨無量のほほえみ、子供の成長にあたたかな眼なごし、目もとが大変美しく印象的でありました。

平成十三年七月

原口 時夫

・補記
都電駒込車庫跡地に建設されたこれらの建物は、都営駒込住宅（約二百戸）以外に、豊島区文化創造館・豊島区民ひろば駒込・豊島区駒込図書館・豊島区駒込第三保育園・日本赤十字血液センターおよび5軒の商店が入居。
建設以後三十数年たち、平成27年度には住宅及び商店以外の施設は一年をかけた大規模改修を行う。



(2007年4月2日) 都営駒込住宅・JR 駒込駅・山手線

J.H.

2015.6.03